



## 畜産業発展へ新計画



速野市内で飼育されている牛。担い手の減少や高齢化など県内の畜産現場は多くの課題を抱え、きめ細やかな対策が急がれる＝速野市土淵町

(2016年4月21日付4面)



成る前の子牛(繁殖素牛)を購入する際の費用などを補助する。また、農協など関係機関や団体で構成する「地域サポートチー

県、本年度から10年間

① 県は、畜産の経営規模の拡大や競争力強化に向け、2016年度から10年間の県酪農・肉用牛生産近代化計画をまとめた。担い手育成や牛を育てる技術の向上指導、施設整備などに力を入れる。畜産農家の減少や環太平洋連携協定(A)を見据え、足腰の強い経営体制を構築し県内畜産業の持続的な発展を目指す。

### ② 経営規模拡大図る 担い手育成などに力

③ 県は経営規模を拡大して生産の効率性を上げるため、牛舎や生産管理用機械の整備、繁殖と肥育(牛を大きくし、肉をつけさせる)の一貫経営の促進などに取り組む。繁殖牛として育てる前の子牛(繁殖素牛)を購入する際の費用などを補助する。また、行政、農協など関係機関や団体で構成する「地域サポートチー

△による指導も行い、地域ごとに情報を共有し課題解決に努める。生産費の約40%を占める飼料費は高止まり傾向にあるため、自給飼料の活用も推進する。飼料用トウモロコシの作付け拡大を目指した転作の補助や、草地の飼料基盤の整備・改良などを進める。25年度には乳用牛の飼料自給率を現在の33.0%から61.9%、肉用牛は現在の45.5%から79.1%への向上を目指す。担い手育成では、女性の

視点や感性を生かした6次産業化の促進や女性リーダーのネットワーキング、グループ活動支援にも力を入れ、畜産に関わる多様な人材を育成する。農林水産省の畜産統計によると、県内の肉用牛農家は08年の7690戸から約2千戸減少し、13年は5660戸で、酪農家は08年から約3000戸減り13年は1140戸。全国で肉用牛が3位、酪農は2位と上位にあるものの、年々減少している。

1戸当たりの飼養頭数(15年2月1日現在)は県によると、肉用牛が平均17頭で全国最下位、乳用牛が同42頭で全国39位と課題がある。農家の高齢化や後継者不足など畜産を取り巻く環境は厳しさを増す。県畜産課の藤代克彦総括課長は「強い経営体制を確立することで農家の収入を上げ、競争力も高めていきたい」と話す。

1. 文章中の①～③の読みがなをひらがなで書きなさい。

- ① .....  
② ..... い .....  
③ .....

2. 文章中のA [ ] に当てはまる略称をアルファベット3文字で書きなさい。

3. 2013年は岩手県の肉用牛農家と酪農家の飼育戸数はそれぞれ全国で何位か、書きなさい。

肉用牛農家：第 位      酪農家：第 位

4. 文章中のB [ ] に最も適している文章を次のア～エから1つ選び、記号で書きなさい。

- ア 大規模農家が多いため生産コストが高くなってしまいう  
イ 大規模農家が多いため生産コストが低くなってしまいう  
ウ 小規模農家が多いため生産コストが高くなってしまいう  
エ 小規模農家が多いため生産コストが低くなってしまいう

記号： .....

年 組 名前